

コチョウランに情熱注ぎ

人を大切に花も人も育てる

福岡・志免町 南里優さん



コチョウランに囲まれる優さんと美紀さん

【福岡】「僕はコチョウランで人とつながっている」そう話すのは、志免町にある南里園芸の南里優さん(56)。1500坪の敷地に7万鉢のコチョウランを栽培し、切り花として年間16万本出荷している。

25歳で事業を継いで以来、贈答品のイメージが強いコチョウランを気軽に楽しめるものにするためまい進した。「花持ちがよく、ひと月ほど楽しめます」とホームユースやヘアアレンジなど新たなシーンで提案してきた。その栽培品質は高く評価され、2020年には県花き品評会で農水大臣賞を受賞している。

公私ともにパートナーである妻の美紀さんは、そんな優さんを「一人との関わりをとても大事にする人」と話す。市場にとどまらずその先の花屋、そして苗の生産者とも直接やりとりし、ニーズを汲み取る。また、「ノウハウは包み隠さず伝える」と同業の人材育成にも積極的だ。

優さんの思いのこもったコチョウランが、各地の日常を彩っている。

【福岡】「僕はコチョウランで人とつながっている」そう話すのは、志免町にある南里園芸の南里優さん(56)。1500坪の敷地に7万鉢のコチョウランを栽培し、切り花として年間16万本出荷している。

25歳で事業を継いで以来、贈答品のイメージが強いコチョウランを気軽に楽しめるものにするためまい進した。「花持ちがよく、ひと月ほど楽しめます」とホームユースやヘアアレンジなど新たなシーンで提案してきた。その栽培品質は高く評価され、2020年には県花き品評会で農水大臣賞を受賞している。

公私ともにパートナーである妻の美紀さんは、そんな優さんを「一人との関わりをとても大事にする人」と話す。市場にとどまらずその先の花屋、そして苗の生産者とも直接やりとりし、ニーズを汲み取る。また、「ノウハウは包み隠さず伝える」と同業の人材育成にも積極的だ。

優さんの思いのこもったコチョウランが、各地の日常を彩っている。

マルシェで農業者年金PR

農委会ウーマンネット広島

レンコン・サツマイモ・コロッケ販売



【広島】農業委員会ウーマンネット広島の県東部地区市町の女性農業委員有志が10月26日、世羅町のせらワイナリーで開催された「せらの里山ecoマルシェ」に参加した。

三原市、福山市、府中市、世羅町の8人の女性委員は、それぞれが持ち寄った農産物や加工品を販売しながら農業者年金をPRした。テントを訪れた若い農業経営者夫婦や担い手農家に、「将来

都城の肉、みんなで味わう

夜はドローンショーと花火大会も

宮崎・都城市 焼肉カーニバル



【宮崎】都城市高城観音池公園で10月19日、「2025焼肉カーニバル」が開催され、多くの来場者でにぎわった。写真：牛・豚・鶏の合計農業産出額日本一を誇る都城市のPRと、新鮮な食肉を思う存分楽しめるイベントだ。

会場には手ぶらで行き、その場で肉を焼いて

に備えてきてみて」と農業者年金のチラシを手渡した。写真。

会場では、三原市大和町産のレンコンや世羅町産のサツマイモ「あまはづき」などがよく売れたほか、府中市農業委員の野津田はるみさんが提供

味わうことができる。購入したチケットと交換できる牛・豚・鶏が入った肉パック以外にも同市の特産品なども入手でき、ステージイベントやさまざまな出店

香川・高松市 橋本俊一郎さん

【香川】

他産業での勤務を経て、10年を超えた高松市の橋本俊一郎さん。都市化・混住化が進む地域で経営面積約12畝にアスパラガス13戸のほか、白大豆、大麦、水稲などを組み合わせて、家族で経営する。

また、毎年、地元小学校の地場産業学習で児童を受け入れ、圃場や農機具を見て触れてもらい農業現場の理解促進にも努めている。「宅地化が進むこの地域ではいろいろな制約があるが、最良の方法を考えながら食を支える農業と農地を次世代へつなきたい」と話す。

都市化・混住化に負けない農業を

白大豆の安定生産が目下の関心事

農地はあちこちに点在するが、仲間の農業者と農地の利用権を交換し、効率化している。知り合いを通じて耕作をやめる農地が数軒紹介されることもあ

八尾えだまめの抑制栽培に挑戦

秋でも楽しめる特産品めざす

大阪・八尾市 松岡孝明さん



収穫を控える八尾えだまめと松岡さん

【大阪】「旬の時期と遜色ない単収をめざして試行錯誤を続けている」と話すのは、八尾市恩智の農地約14.5アールで八尾えだまめ、八尾若ごぼう、青ネギなどを生産する

松岡孝明さん(60)。2024年から同市特産の八尾えだまめの抑制栽培に取り組んでいる。

きっかけは、知人農家からトウモロコシの抑制栽培の話聞いたことだ。秋に収穫することで害虫防除の労力軽減が見込めるほか、出荷時期の分散による高単価も期待できると考え、八尾えだまめでの実現に挑戦した。

「昨年の秋に収穫した

「創意工夫し積極的行動を」

兵庫県農業会議

農業関係職員対象に研究会

【兵庫】県農業会議(荒木一聡会長)は、農業団体や市町職員を対象として農業に関する知識を幅広く習得することを目的に、本年度から「地域と共に歩む農業・農村を考える研究交流会」を開催している。

10月29日に第2回を神戸市で開催。荒木会長が



ブース設け多様な希望に対応

鳥取県農業経営・就農支援センター

倉吉市でとっとり農業人フェア

【鳥取】倉吉市のエスパック未来中心で11月1日、「第3回とっとり農業人フェア」が開かれ、県農業経営・就農支援センターの主催で、県内外から約60人が来場した。フェアは、鳥取県で農業を始めた人を対象に2023年から開催。当日は、県内各産地の生産



梨生産の魅力熱く伝えるブースも

くことができ、就農への流れが具体的に分かった」との声があがった。事業者からは「まずは雇用就農からという人もあ

り、次につながる話があがった。

セミナーでは、県の農業・就農に向けた支援策の紹介のほか、若手生産者が就農のきっかけや就農に至るまでの体験、職業としての農業の魅力とやりがい

県産品販売と体験が盛況

愛知・あいちの農林水産フェア

【愛知】生産者と消費者とのふれあいの場提供と地産地消推進を目的に、「あいちの農林水産フェア」が名古屋市のオアシス21で11月8、9日に開催された。写真。



会場では県産のレンコン、トマト、牛乳、蜂蜜、花などのほか、米粉を使ったバウムクーヘンやブルーベリークレープなどの加工品も販売された。

親子で参加できる体験コーナーでは、子どもたちが農家と一緒に栽培した野菜の販売や、シイタケの収穫、県産ヒノキを使ったマイ箸作りなどの体験があった。

また、あいちの地産地消クイズやスタンプラリーのほか、野菜ソムリエ

地方総合

各地の話題

稼働を始めた乾燥調製施設の前で橋本さん